

## 簡易宿泊所転用型アパートにおける生活実態と交流に関する研究

一積極的な地域生活に向けて一

建築計画分野 金 沙智

大阪市西成区あいりん地域は日本最大の寄せ場として発展し、多くの簡易宿泊所が誕生した。そして時代の変化、居住者のニーズの変化に応えながら、今日ではその多くが宿泊所からアパートへと経営転換している。あいりん地域と居住空間における研究には、社会福祉や権利の視点が大きい。また空間や生活の視点での研究との比較においても、転用型アパートのハードとソフトの関連のなかでの単身居住者の人づきあいや社会参加に関する視点はみられない。本研究は、まず転用型アパートの運営、支援と連携より、地域の高齢単身者の居住空間の受け皿として機能している転用型アパートの現状と課題を明らかにした。また居住者のアパートに対する評価と実際の利用をみることで、転用型アパートの空間的特性とその影響による生活展開及び交流展開の可能性を考察した。

## 1. 研究の背景

大阪市西成区あいりん地域は寄せ場地域として発展し、単身男性が多く住まう「労働者の街」として象徴されてきた。しかし近年では日雇い労働市場が縮小し、かつて簡易宿泊所で生活の場を形成してきた労働者たちは失業と高齢化に伴って、生活保護受給と同時に簡易宿泊所転用型アパート(以降、転用型アパート)での暮らしに移行しつつある。ニーズの変化による宿泊率の低迷とともにアパートへと経営転換する簡易宿泊所が増加し(図1.)、それはいまでは地域の元労働者などの高齢者をはじめとする単身かつ生活支援を必要とする居住層の基本的住居としての受け皿を担っている。また、過酷な労働条件に対して機能してきた支援のシステムは今日、行政と各団体、そしてアパートとの連携の在り方を模索し、居住者のより良い暮らしのサポートを目指して動きだしている。一方で、転用型アパートはその特殊な形態から、一般の共同住宅とはまた違った暮らし方への影響力をもっているといえる。あいりん地域には支援と居住のストックと単身高齢者の暮らし方の一つの可能性を秘めている。

## 2. 研究の目的

転用型アパートにおける運営と地域との連携の実態、そして居住者のアパートに対する評価及び生活実態と拡がり进行を明らかにし、簡易宿泊所転用型アパートでの暮らしのハード・ソフトの関係の特性を把握する。

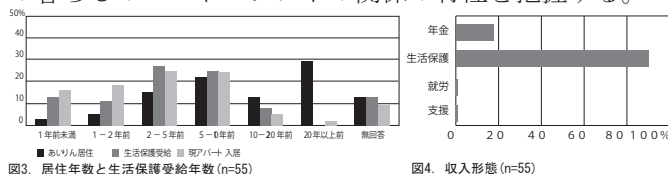


図3. 居住年数と生活保護受給年数 (n=55)

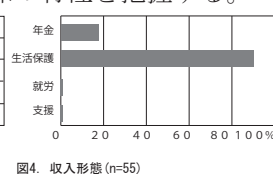


図4. 収入形態 (n=55)

それによって単身高齢者の暮らしの拡がりの一つの可能性を示すことを目的とする。

## 3. 調査概要

初めに、あいりん地域に建つ転用型アパートの現状を明らかにするため現地での建物目視調査を行った(図2. 街区A-M)。その後、支援付を推し進めるサポーターハウス(Is, Hi, Wo)及びその他の任意の福祉アパート

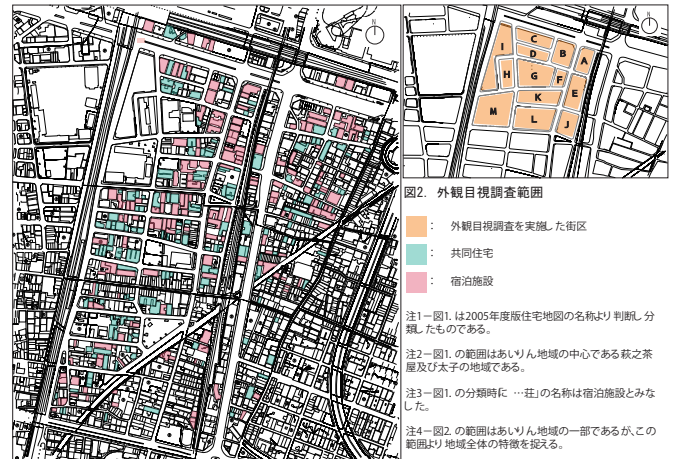


図1. あいりん地域の共同住宅と宿泊施設

表1. アンケート配布/回収率

	Is	Hi	Wo	Wm	Sy	Os
配布数	20	20	30	12	30	15
回収数	12	10	14	5	7	7
回収率	60%	50%	47%	42%	23%	47%

表2. ヒアリング対象アパートの施設概要

運営形態	Is	Hi	Wo	Wm	Sy
施設名	1987-1988年	1985年	1970年頃建築	1986年12月	1986年12月
以前の建物形態	簡易宿泊所	簡易宿泊所	簡易宿泊所	簡易宿泊所	簡易宿泊所
業態変更時期	2002年2月	2000年12月	2000年11月	2001年6月	2001年6月
階数	6F	6F	6F	8F	8F
備前の広さ	3室-4.5室	3室-4室	3室	3室-3.5室	3室
トイレ	各層共有	各層共有	各層共有	各層共有	各層共有
浴室	共同大浴場	共同大浴場	共同大浴場	共同大浴場	共同大浴場
台所	各層共有	各層共有	各層共有	各層共有	各層共有
オート	オート	オート	オート	オート	オート
スタッフ数	スタッフ2人	スタッフ4人	スタッフ1人	スタッフ2人	スタッフ2人
施設管理	施設管理	施設管理	施設管理	施設管理	施設管理
サポーター	医薬品管理	医薬品管理	医薬品管理	医薬品管理	医薬品管理
モニング喫茶	モニング喫茶	モニング喫茶	モニング喫茶	モニング喫茶	モニング喫茶
家賃	142,000~	142,000	142,000	142,000	142,000
床	床	床	床	床	床
電気	電気	電気	電気	電気	電気
水道	水道	水道	水道	水道	水道
ガス	ガス	ガス	ガス	ガス	ガス
エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター	エレベーター
改修	改修	改修	改修	改修	改修

表3. ヒアリング実施居住者の概要

仮名	年齢	性別	居住	所得	世帯
Ym	67歳	男	Is	生活保護/特待	単身
Mz	54歳	男	Is	生活保護/就労予定	単身
Ho	72歳	女	Wo	生活保護	単身
Ao	71歳	男	Wo	年金	単身
Ks	72歳	男	Wo	生活保護/特待	単身
Ar	58歳	男	Mh	生活保護	単身
Na	80歳	男	Fr	生活保護	単身
Ki	*	男	Hi	就労	単身
Sa	*	男	Hi	生活保護	単身

注5-ヒアリング実施対象者は紹介によるものもあり、ヒアリングを行ったアパートと一致しない事例もある。

注6-アンケートを実施したアパートのうち、Wm, Osでのスタッフヒアリングは行っていない。



**2) 運営管理** 夜間は11時頃に正面玄関が施錠される。Syでは管理人が住みこみ勤務のため24時間常駐するが夜間・日曜は休業となる。一方SHのIs, Hi, Woでは24時間対応可能な体制を整えている。またスタッフ人数もアパートへの転換で減らすアパートもある中、SHでは4~5人による細やかな対応を図っている。共用部は談話室と浴場、コインランドリーの利用時間に決まりがあり、居住者はその時間に沿った生活展開をなす。

**3) 支援—ハード** 談話室の設置と、高齢居住者に対応する手すりと車椅子用スロープの設置がみられた。スロープはSHだけでなくSyでも確認でき、地域のどのアパートにもかかわる高齢居住者対応の基本的整備の要素と捉えることができる(図11.)。

**4) 支援—ソフト(Is, Hi, Wo)**

**・金銭/医薬品管理** 長年の日当払い感覚が体に染みつき月の生活費の計画利用が困難な居住者に対して1日ごとに各自の意思に対応した小づかい制を実施し、また規定の薬を規定の時間に摂取してもらえよう管理することは、居住者の生活維持に貢献している。

**・支給/サービス** 希望者に対して弁当の支給を行うことは、健康管理や外出困難な居住者に対する支援として捉えることができる。また談話室では週1回のモーニングサービスを行うことで、安価な設定によって居住者の交流の場を生み出している。季節に合わせ内容に変化を持たせることで各アパートで30人前後の居住者が継続利用している。

**・行事/機会の創出** 旅行やボーリング大会・クリスマス会など、季節に合わせた行事の企画は、居住者と居住者のつながりのきっかけ、スタッフとの関係の構築、日常の楽しみ創出につながっている(図13.)。

**・共有のキッカケ** 談話室の存在はモノとコトの共有の場として機能している。無料のインスタントコーヒーや電子レンジ、本、新聞の設置と共同利用は共用空間に出でるキッカケであり、また共有による居住者間の関係の親睦につながっている。( )

**・見守り** 転用型アパートでの共同生活は、居住者同士と居住者—スタッフがいつも顔を合わせるという関係であるため、体調や日常の変化に即時に気付き対応することが可能となっている。下足や上足の有無を確認できることで、滞在の確認や安否確認を自然に行うことができる仕組みとなっている。

**・事務作業** 受付スタッフは居住者と社会をつなぐ中間位置で機能する。日常で居住者と接することで深く理解ができ書類の処理を代理することができることは無意識にも高齢居住者の大きな負担軽減につながる。

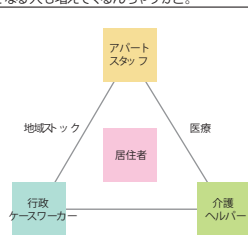
**・葬儀の計らい** 身寄りの多くない居住者に対して葬儀を執り行うことは、その他の居住者に対する不安軽減と日々の精神面の支えになっている。

**・まとめ** 運営の基本となる設えや管理体制においてはSyも含め、地域内のアパートには基本的に整えられていることがわかった。一方、交流や個々に合わせた支援のアプローチに関してはSyではあまりみられなかった。SHのようなボランティアな付加価値の提供は準備費用と手間がかかるため困難でもある。しかし、そのような支援は、生活維持や機会の創出において有効であることが確認でき、それを可能とする下支えと連



表5. 簡易宿泊所転用型アパートスタッフへのヒアリング

<p>[1]場所とモノの共有 談話室に置いてる本は勝手に持ってついでください。また返してねって。買ってきて置いてる人もおるよ。本好きな人めちゃうく読むんでね。考えたら時間あるからね。だから最近ニュースやたら読むからほよ。で、教えてもらうん。そんなんあったん、知らんかったわ」言うて。</p>	<p>[7]対応の付加価値 せやからな。もうほの売りはこれ、改造してどうのちゅうのは大層になってしまから、うん。そちの付加価値やねん。普段の対応、あと見守り体制の厚さ。要するに今はこの街から離れて一人で生活してる人も色々あるやけど、いずれ歳いったとたん…今でも介護、ケアマネとかヘルパーさんと親してるけど。のひととてどう思うていうのを常に介護入る人もこのスタッフも親し合ってるわけや。そんなんなかつたら誰と話す? 本人が話しなかつたらヘルパーさん困るで。だから最終的にはやっぱりそういうことが必要となる人も増えてくるんちゃうかと。</p>
<p>[2]新聞とモノの共有—2 新聞は一紙だけ置いてるんです。でも他に上で読んで自分が買ってきて、いらなくなったら置いてくれるので、それをみんな返。読んでみたりとか、談話室で読むっていうかたち。だからスポーツもあるし、うちは読売とって読んで読売をここに一紙だけ置いてとくんです。</p>	<p>[8]相談の連携 1 人大変な人おって訪問看護もくるわけや。で、その人もちゃんと支援団体の紹介やから、そこも話進めて、で、なんでよくその紹介いうのを大事にするやから、紹介した人がその当事者に声をかけたほうがいい言葉、あつたり声かけたほうがええ言葉、役所が声かけたほうがええ言葉って3つ選べるんよ。そこを丸投げでうちだけでやったら、毎日顔合わせするに日常のこと言われたら嫌やわ。いつも顔見る人それを言われたらさつこついいいものもあるし、で、いつもおのり人信頼して世話なってる」だから言うてみてやとどり方もあるし、まあそれはよく支援の人に「こんなん言うてくれへんか」て言いに行くから。俺ご言うたらキツなんね、この人になつたら気持ちキツなるや。お前とこ言うてくれや。で、ほんまやな、わかつたわかつたちゅう感じ。</p>
<p>[3]見守り そやね、散歩したりとか、居る人はずっと部屋に閉じこもって居る人いてるけど。でも買い物とかはね、みなさん行きはるんでね。でもうちは1日見ないでよ一人でそんなん。だからそういうの作って 今日帰転すし食べにけや。で、もうそこが焼けたら次の転居先みつけたら、それがね、そこに今宮中学あんな、その正門の前や。んでね、農作業 ボランティアも来てたし、公園の草抜きも来てたのよ。ほくが連れてってやったらから、その人もほくのことや知ってて、それやからそれも、火事でも行ってんけど、でそこで生活。はってってんけど、足とか内臓悪なって動かせんとききに労働センターのほう電話あって、んでここに電話あって、でうちのスタッフ買出し、ずうと行つたてん。んならやっぱ1人の生活にも限界があると、8 超えてきて。やっぱしんどなたら…</p>	<p>[9]相談の連携—2 入院とかは強制はだけへんから。んで最後の最後の言葉までよくが言うてしまつと、ほくに入院させられたって話になつてしまつと、やっぱそれは避けなあかん。その人にとって何がいついって発想? するなら、ほくそれくらい丁寧でいいと思う。同じ結論、入院という結論があるに、たててね。やから、1人の人を1人でやしてもたらそんなんつなかりもなく、強制的なものになつてしまつ可能性もあるし。その前に本人が潰れてしまつ可能性もあるでよ。だから何が大事なんだろうかっていうのが、でもそういう経験してない人にはわからへんのよ、何が大事っていうな。</p>
<p>[4]事務作業の代理 やっぱ大きいんちゃう、事務作業。本人らは、最初からあるとこは気付いてないやろけど。そういうの、なかつたらでけへんいうこと知らんもんな。まあいうたら国勢調査でもなんでもここにおつたらスタッフが書いてくよいう話で。スタッフが 国勢調査書くよ」言うたら はいはい」で済む話やからな。せやからそれが当たり前なつてわからへんねんけどな、その有り難みとか、あと 普段話しできるかなや、やっぱ普段話し 出来るのが一番いいんやろな。スタッフとも気軽に喋る人は喋るはな。</p>	<p>[10]受け入れの連携と柔軟さ 今も子どもの里の関係でお母ちゃんと3歳の女の子預かってる。こ入ってから生活保護かかった。最初はかかってなかつたけど、あとあすかるゆうかたになつて。だからネットワークがあるから。金崎まち再生フォーラムのネットワークがあるから、こどもの里で夜回りするのよ、毎週土曜日やてるけど。そんなんや、子どもも持っている野宿の人もたまにあつたから、そんな人を急遽連れてよと。まあ若いってしてもそうでもない。45とか50くらいで小さい子ども抱える場合もあるから。そんなんとか、こどもの里に相談あつたら、すぐここに電話する。もう一時も早くいられたって。んでどりあえずここで生活保護かけられるようにやつたてと。手続きももうみんなやつたてよと。んで向かいの保育園、草保育園であんねんけど、そこが青空保育もやてる。緊急でも探ってくれると思う。もう緊急、明日からでも、よろしくって言うたら探ってくれるのよ。そのかわり住むとこ俺面倒みるんやから、親も子どもがそこで見てもらう間に役所の手続きであつたり病院であつたり、仕事探さなあかんかったら仕事探しにいたり。それに時間とれるから、ほな、それで、手続きやつたてって言う話。そんなんと日本にどこ探、でもないよ。</p>



携の必要性を唱えることができる。

**5) 連携—振り分け** 居住者との身近な関係にあるスタッフは発言や対応の慎重さが求められるが、時と場合によってその「やりにくさ」を行政と地域の人的ストックの連携によってうまく取り計らうことが可能となっている。居住の場のスタッフ、身体サポートの介護ヘルパー、社会との中間に入るケースワーカーの3つの相談口が互いに連携することは、トラブルの回避として機能している。

**6) 連携—往復** 重層な人的資源が成す緊急時の連絡の行き来は入居の際の円滑な受け入れを可能にし、居住者の孤独と不安に対する支えとなりうる。Woでは空室4室を常時確保していることでハードの受け皿として機能し、多方面支援と情報・連絡のネットワークの存在によって緊急かつ細やかな対応を可能にしている。

**7) 簡易宿泊所転用型アパートと地域の課題** 居住者の発展的な暮らしに向けた運営・支援・連携の課題として①アパート内における支えと安心の提供、②地域全体での居住者の居場所創出、③地域を包括したつながりの創出、④それらが融合した仕組みの創出、をあげることができる。独居生活において高齢化とともに思うままに社会参加ができなくなるにつれ、実生活でのつながりと心の支えはより重要となってくる。支援の実践をアパートごとに単発ではなく協同することに、生活の場の広がり「あいりんデイサービス」た地域を包めたつながり及びその居場所づくりの一つの可能性を見出すことができると考えられる。

**6. 入居プロセス**

入居者Ymは失業、AoやKiは帰国や引越しによる新居探し、Saは不安定生活から落ち着きを得たいという入居動機のもと、自ら行政・支援団体に赴きアパートの紹介を受けている。また、Mzは入院より、Asは火事による住居喪失より支援団体からの声かけで入居アパートを選定している。一方、KrやNaは直接のアパート関係者からによる声かけによって保護受給と入居にいたっている。結果KrやNaには他の選択肢がなく、Kr退居に至っている。Ym～Asのケースでは、初期段階か中間段階に地域の支援が介入することによって選択幅は広く決定権は自らにあるため、各々のニーズに対応した

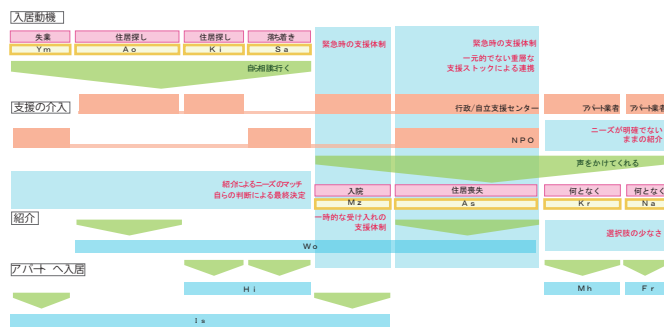


図15. 入居プロセス

住居選択が可能となっていることがわかった。またそのつながりはその後の相談窓口にもなり、入居者の生活基盤の下支えとして機能しているといえる。

**7. 居住者の居室空間の利用と工夫**

居室空間は各居室(主に3帖+板の間)が最小限単位となっている。転用型アパートでは宿泊施設の造りの名残から水まわりは居室外部に設置され、居住者の生活領域も居室を拠点としてアパート内にあふれ出している(図15.)。最小限である居室は長期居住においては窮屈であり、空間利用の工夫が各居住者ごとにみられた。大きくはMzやHoのように家具によって整理する空間利用と、NaやKrのように家具を置かないことでスペースを確保する利用方法がある(図16.)。特徴としてNaやKrは生活の軸がアパート外にあり、居室では「テレビを見る」以外の積極的な行動はみられなかった。MzやHoは「ダンスに大切なものをしまう」や「絨毯がある」など、生活拠点としての基盤を整えており、友人を招き入れることもあることから自分の部屋とし

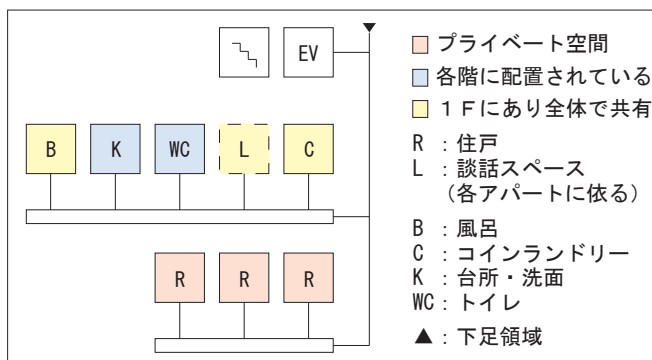


図16. 簡易宿泊所転用型アパートの室の配置

表6. 居室の利用と工夫

家具収納による空間の創出	<p>&lt;3帖 + 収納 + 上足スペース&gt; 初期設備/ 建具: 開口1+洋服掛け+TV+エアコン+冷蔵庫+棚</p>	<p>&lt;生活の特徴&gt; 大きな家具を揃えることで収納スペースを確保。退院後6年7カ月の間に少しずつ揃える。土曜日のための器具や食器も多量がある。上足スペースがあったため、ものを整理、収納する慣習がある。</p> <p>&lt;生活の工夫&gt; 収納を片側壁にまとめることで、居座りスペースを確保。また絨毯を敷くことでラインを明確化。大きな家具によって積み上げ収納が可能。</p>	
	<p>&lt;4帖 + 収納 + 板の間 + 上足スペース&gt; 初期設備/ 建具: 開口1+洋服掛け+TV+エアコン+冷蔵庫+棚2</p>	<p>&lt;生活の特徴&gt; 入居当初は2人での生活であったため、間取りが4帖で広い(現在独居)。女性であるため、料理のための器具や食器も多量があるが、既設の棚にきちんと収納されている。</p> <p>&lt;生活の工夫&gt; 両サイドの棚の使い分けによって、衣類/布団類と食器類/調理器具を収納している。布団をしまうことで、居場所を確保。壁の上部に干し竿をかけることで、未着用の洗濯を干すことができる。全壁面にフックをつけることで、カバンや洋服、タオルを取りかける。内開きで置きっぱなしにできない靴は引き出しに収納。</p>	
	<p>&lt;3帖 + 収納 + 板の間 + 下足スペース&gt; 初期設備/ 建具: 開口2+洋服掛け+TV+エアコン+冷蔵庫+棚</p>	<p>&lt;生活の特徴&gt; 入居10年になるが大きな家具を増やさない。必需品のみを揃える。生活の軸が外部にあるため、部屋ではテレビを見る/寝るが出来る状態で事足りる。</p> <p>&lt;生活の工夫&gt; あえて家具を増やさず居座りのスペースを確保。2つの開口のうち1つを洋服掛けに利用。棚上のテッドスペースを靴置きに利用。</p>	
家具なしによる空間の創出	<p>&lt;3帖 + 流し台(下収納) + 下足スペース&gt; 初期設備/ 建具: 開口1+洋服掛け+TV+エアコン+冷蔵庫+流し台</p>	<p>&lt;生活の特徴&gt; 1年で退去。入居してすぐに住み続ける意図をなくし、家具のみを揃える。簡易力入りに洋服を詰め込んだ状態を継続。共用台所が1階のため、各居室に流し台がある。生活の主な活動は外部で行い、部屋ではテレビを見る生活。</p> <p>&lt;生活の工夫&gt; 紐をかけることで、洗濯を干せるようにしている。</p>	

での意識と落ち着きをみることができる。狭さ克服の工夫として、共通して壁面を収納の一つとして全面利用し、時には臨時に紐や棒で吊るすことで洋服を収めている。家具や棚の使い分けによる収納で、極小居室内にも領域と居座りの場所が基本的に定まっていることがわかった。

## 8. 共用部の利用と評価

転用型アパート内には生活の一部となる共用の場として台所、浴場、談話室があげられる。

・台所利用 利用頻度は「1日に何度も」で0sが最も多い42%、次いでSy-29%、Wo-22%、Wm/Hi-20%、Isが最も低い8%となっている。全体では「週2,3回」以上と「週1回」以下で半々程度の割合である。Wo, Hi, Isでは弁当支給もあることで利用率が低くなっていると考えられる。しかし、Os, Sy, Wmが利用層と非利用層がはっきりしているのに対して、Wo, Hi, Isでは時によって朝だけ自炊するなどの使い分けのケースをみることができた。頻繁な利用層にはガス水道代や掃除などの合理性と同時に、「自分の部屋で使いたい」などの、「接する場」というよりも利便性の面を重視する傾向がみられた。

・浴場 浴場利用では「毎日1回」「週2,3回」が多く、使用時間の制限により「1日に何度も」利用することができない。「ほとんどない」は銭湯とデイスーツで利用している。「毎日1回」の層にはポジティブな評価が多く、消極的な利用層には「気を使う」といった個人利用を求める意識がみられた。

・談話室 Os, Syには談話室はない。またWmは建物全体を改築して間もないため、「広くてゆたたりできる」意識はあるが積極的な利用に至っていない。Wo, Hi, Isでは利用頻度に幅があり、週1回のモーニングや行事のキッカケにより選択的な利用ができる場として機能している。Isは家庭的な空間の雰囲気づくりに気を配っており「1日に何度も」が50%と利用率が高い。

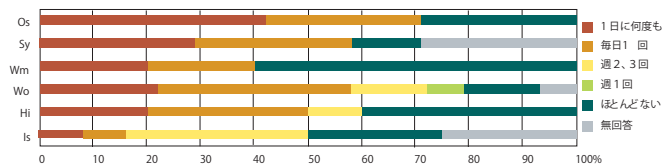


図17. 台所の利用頻度 (n=55)

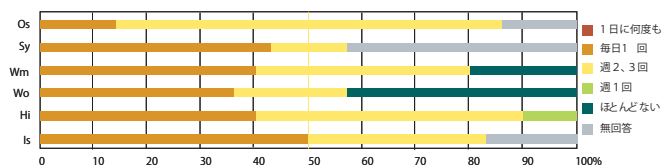


図18. 浴場の利用頻度 (n=55)

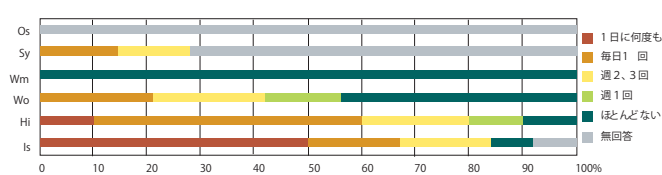


図19. 談話室の利用頻度 (n=55)

絶対利用ではないためネガティブな意見はほとんどみられず、利用層には話ができ安否確認もできる場として評価していることがわかった。

## 9. つきあいの拡がりとお部屋の評価

台所は各階で同階どうしの顔合わせの場となるが、

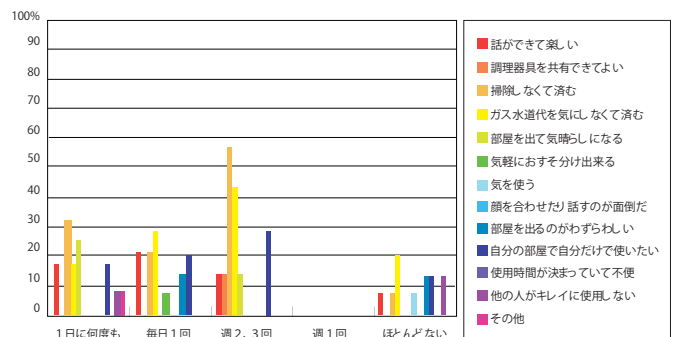


図20. 台所の評価 (n=55)

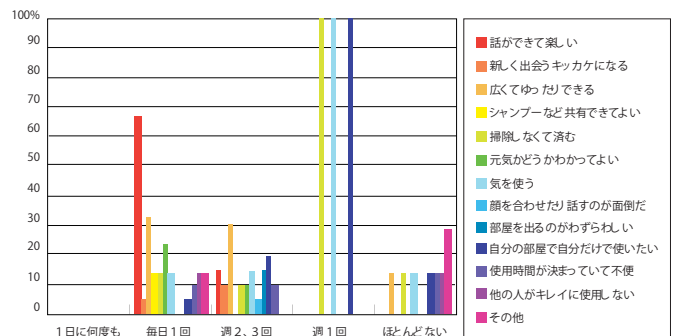


図21. 浴場の評価 (n=55)

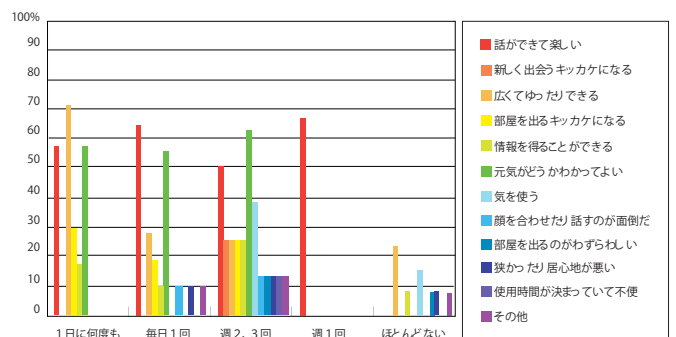


図22. 談話室の評価 (n=55)

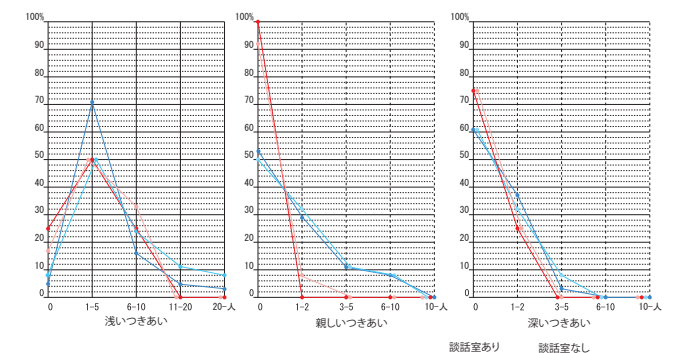


図23. 談話室の有無でみた同階とアパート全体のつきあい人数 (n=55)

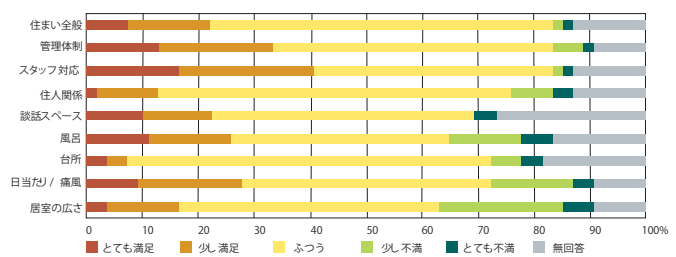


図24. ハードとソフトに対する満足度 (n=55)

浴場や談話室が共用として存在することで、居住者の同居者に対する意識の向上につながっていると見える。談話室の有無によって、同じ階だけのつきあいに加え、アパート内全体の付き合いの増加に差が生じることがわかった。また、アパート内の空間と人間関係の評価では、居室に対する不満を他の共有スペースの存在と支援・対応のソフトの満足によって補完されることで生活の場が成り立っていることがわかった。

### 10. 交流意識からみた行為と場所との関係

9人への生活ヒアリングにより、日常1人での行為と交流意識を持った行為をアパートの内外で4分類することで、生活展開の拡がりの要素を考察した。

・**バランス生活型** 居住者Ao, As, Mz, Kiは4分類の3つの範囲に対して積極的でポジティブな行為と交流がみられた。Ⅲ(表○)では急なお裾分けやお返し、部屋の行き来などがみられ、共同生活の共用部での顔なじみになっていく過程から派生したつながりであるといえる。Ⅱでは喫茶店や食堂などの地域ストックの利用がみられ、食事や風呂などの決まった習慣としての利用の特徴があるといえる(Kiは就労の帰路で立ち寄る)。

・**外部依存生活型** 居住者Kr, Ho, NaはⅡとⅣが連鎖しているのが特徴としてあげられる。バランス型に対して、Ⅱの行為が習慣でありつつも「ぶらっと思いつき」の要素も持ち合わせ、そこに1人からも参加・出入り可能な地域資源があることが大きな支えになっている。Hoは転用型アパートの生活特性である暮らしのあふれ出しによって外出のキッカケを生み出し、交流のキッカケへとつないでいる。

・**内部依存生活型** 居住者Ymは居室外/アパート内の生活の場を軸とし、談話室での居座りが「居合わせて

表7. 日常行為の分類

交流意識からみた日常の行為と場所	
アパート内	アパート外
日常ひとり	Ⅰ Ⅱ
日常つきあい	Ⅲ Ⅳ
1-居室内やアパート内での習慣や生活展開 2-アパート外での習慣や外出の生活展開 3-居室やアパート内共用部での人づきあいの展開 4-アパート外での人づきあいの展開	

日常の行為と場所別にみた生活スタイルの分類

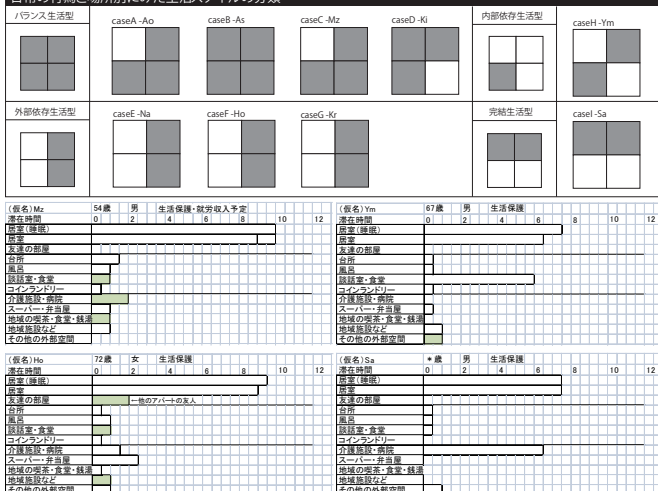


図25. 1日の生活展開

一緒にオセロをする」「入口の見守りをする」などのⅢの交流に派生している。

・**完結生活型** 居住者Saはデイサービスの利用で日中を過ごし、その他の基本的生活を自己完結している。

・**まとめ** 各型に一長一短があるが、転用型アパートの特性との関連の中でその要素を考察すると、①積極的なアパート内部での交流の発展には同居者多人数の居場所となりうる共用空間の設置とその利用を促す契機の創出が重要であり、②アパート外への外出には、アパートから一步踏み出す契機となる転用型の特性は有用であり、さらなる偶発的な交流への発展に向けて「ついで」や「あいま」を埋めることのできる分散した豊富な地域のストックがあることが生活展開と交流展開には欠かせない要素であるといえる。

### 11. 結論

転用型アパートへの調査により、まずその形態と運営の特性をみる事ができた。運営管理では100人規模の共同生活を支えるルールが設定されているが、居住者は管理に対して目立った不満はなく、その中で生活を展開していた。むしろ一般的な共同住宅と比較しても細かな支援体制や身近な相談窓口としての機能をもつ転用型アパートの在り方は単身居住者の生活維持に貢献している。また施設ではない「中間居住施設」としての位置づけが居住者個々の生活展開に自由度を持たせ、自発的/企画的交流の契機づくりにもなっていることがわかった。居室の狭小さは改善の必要がある一方で、生活がアパート内外に段階的にあふれ出す要素としても機能していることから、転用型アパートの形態は積極的な社会参加への可能性を持ち、地域と支援の連携の強化の課題とともにより安心で多様なつながりある暮らし実現へのモデルとしての可能性も持ち合わせていることを考察することができた。

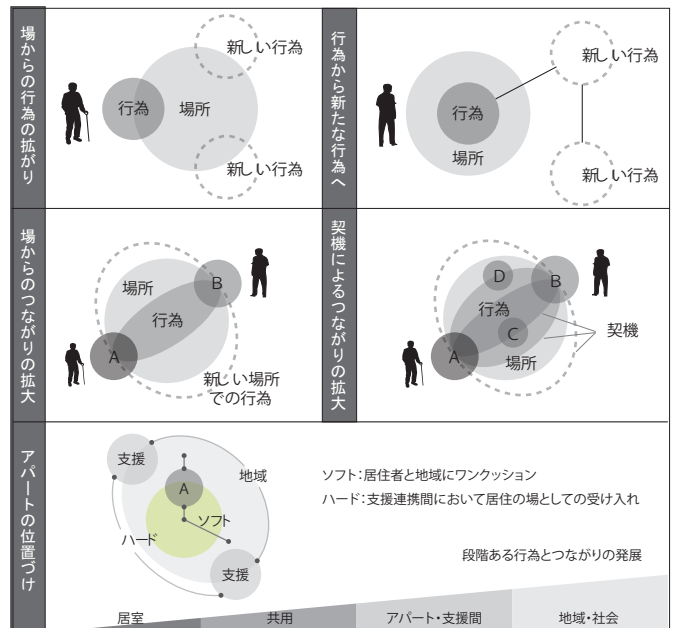


図26. 簡易宿泊所転用型アパートの仕組みと課題

## 討 議 等

## ◆討議 [ 嘉名光市先生 ]

もっと本文の方は街全体をフィールドと捉えてて外出するってことですかね、そういうことも含めて簡宿転用アパートを捉えています、梗概の方は、アパートの方にしぼった感じがして、それだとやはりよくある居住空間研究になってしまっただけでなかなかこのロケーションでこういうものがあるっていう良さが伝わりにくいんじゃないかと思いました。本文をもっと出した方がよかったのではないかなということと、実際住んでる人にも話聞いたりしてるんですよ。後ろの方をみるとヒアリングもされているみたいで。もともとずっと簡宿に住んでいた人が住んでるんですよ。

◆回答：それもありますし、外国から帰国して住居がないから支援施設の相談を経て来た方もいました。

## ◆討議 [ 嘉名光市先生 ]

その辺がどうなのかなと思って。もともと簡宿に長いこと住んでいる人は慣れているから、一番これがいいという感じの良さがあるということなのか、それともそういうことを差し引いても、あいりんの街のなかに色々なものがあってそれを生活のフィールドだと考えるときに、こういう住まい方の形態がマッチしているということなのか、その辺が少しよくわからなかったんですけれども。

◆回答：あいりんっていう地域に対する抵抗みたいなものはあるかも知れないんですけど、支援とか人としてのストックがあって、物もすごく安く買えたりもして、アパートも独居ですけど閉じこもらずに見守られていることもあり、また施設ではないので参加しても参加しなくてもいいという状況があります。何かあったときに対してとても良い環境が整っています。外部から来た人はやはり居室の狭さが気になる、ハードが整っていない不満などはあるとは思いますが。

## ◆討議 [ 嘉名光市先生 ]

新しく来た人はやはり少し慣れない部分があると。

◆回答：そうですね、ただやはりいつもスタッフがいてくれることに対しては満足であるといえます。

## ◆討議 [ 吉田長裕先生 ]

このアパートは社会に住んでおられる方を少しずつまた社会との接点を戻して支援していこうというニュー

ンスか、それともおっしゃっていたように独りの単身の高齢者がそこで快適に過ごすためにどうあるべきかということをお求めなのか、どちらなのでしょう。両方あるんですか。

◆回答：両方ありますけれども、高齢者の方はやはり地域に慣れていることもあってそこまで出ようということはありません。ただ若い人に対しては、相談に行ったら一番最初に案内されるのがこういうところなのでワンクッションとして捉えていて、若い人というのは新しく建った1Rとかに出るので、それまでの金銭管理であるとか生活が自立できるようにという考えでスタッフの方は対応されています。

## ◆討議 [ 内田敬先生 ]

感想というかコメントなんですけれども、中途半端に状況を知っているもので。中間居住施設としてとか、嘉名先生からもコメントあったんですけど、この地域としてどう活用していくかという視点でいくと、ここに書いていることそのとおりでと思うんですけども、概要の方を参考させてもらって単身高齢者の生活の一つの可能性と書いてあるんですけどもこれはどういった意味ですか。

◆回答：ハードだけを充実させてもいけなくて、たとえば単身高齢者の家に浴室を置いたら掃除が大変で結局物置として使われてしまうこともあるそうです。

## ◆討議 [ 内田敬先生 ]

釜ヶ崎以外にも単身高齢者がたくさんいますよね、散在してるじゃないですか。その人たちの交流という風にみれたらいいんですけども、それともここに来たらもっといい生活があるという意味あいですか。

◆回答：仕組みとして参考にできたらと思っています。ただ問題も多々あります。

## ◆討議 [ 内田敬先生 ]

なかなかこういう手厚いことというのはできないですよ。どんな可能性があるといえますか。

◆回答：居住者にとってアパートがあり支援があり地域と受け入れてくれる地域のストックがあるというように、この段階性のある建物と仕組みのつくりがあることで居住者が閉じこもらずに関係づくりができていく例もあり、そういう面ではこのアパートの在り方は一つの可能性としても捉えられるのではないかと思います。